

皮脂欠乏性湿疹とは

皮膚科

皮

皮膚科に多い病気に、「皮脂欠乏性湿疹」があります。皮脂欠乏性湿疹は、皮膚表面の皮脂膜が奪われることで生じる皮膚炎です。皮脂膜は、皮脂と汗から成り、潤いを保ち、外部刺激から皮膚を守るバリア機能の役割を担っています。これが減少すると、肌が乾燥し、刺激を受けやすく、湿疹を生じます。

冬になると、皮脂欠乏性湿疹の患者さんが増えます。原因は、一つに低温度と低気温という冬の気候があります。暖房の効いた室内では、さらに乾燥します。

また、熱いお風呂に長く入ったり、毎日石鹸で洗ったり、ナイロンタオルで擦ったりする習慣も皮脂膜が取れすぎます。さらに、皮脂の分泌自体も年齢とともに低下するので、肌はますます乾燥します。

皮膚は乾燥だけでもかゆみが生じます。さらに、湿疹を伴うと、かゆみは増します。

対策は、保湿剤を塗りましょう。特に、皮膚に潤いのあるお風呂上りは、体を拭いた後すぐに保湿剤を全身に塗りましょう。また、生活環境も見直しましょう。部屋は加湿をし、熱すぎるお風呂は避け、ナイロンタオルで擦ることも止めましょう。石鹸の使い過ぎにも注意しましょう。以上の対策で、皮脂欠乏性湿疹は予防できます。

しかし、湿疹がある場合は、上記の対策だけでは不十分ですので、皮膚科を受診しましょう。皮膚科では、生活環境の改善と保湿剤塗布に加え、湿疹を抑えるステロイド外用剤を処方します。さらに、症状が強い時は、抗ヒスタミン剤や抗アレルギー剤の内服を追加することもあります。湿疹を放置し引っ掻いていると慢性化し、治りにくくなります。また、かゆみが強いと、日常生活に支障が出ます。早い段階での対策と治療をおすすめします。



高木 佐千代
(2011年退職)



皮膚科・小児科
多摩ガーデンクリニック
東京都多摩市落合1-35 ライオンズ多摩センター3F

予約・お問い合わせ
042-357-3671

※皮膚科と小児科では診療時間及び受付時間が異なります。詳しくは受付・電話にてご確認ください。